

「iモード」開発チーム
総責任者 **榎 啓一** 氏（高校19期）

私は1967年立高を卒業後、早稲田大学に進みました。大学卒業後は、電電公社にエンジニアとして入社し、**NTTドコモ設立と同時に転籍、iモードを開発**しました。その後、常務取締役、子会社社長を務め、昨年ドコモを退き、今は毎日が日曜日状態に突入しました。今までのところ私のサラリーマン人生は上出来な方です。最後の最期、死ぬ時に「良い人生だった」と言えるまでは安心はできませんが...



世間常識的にはうまく行っている人生ですが、**高校時代は停滞期**でした。1949年（昭和24年）長崎市で生まれた私はいわゆる団塊の世代です。親父は、家族を食わすために、高度成長期、職を求めて上京し、町田に居を構え、私は町田第二中学校を卒業し、運よく立高に合格しました。

横浜線と中央線を乗り継いでの通学は片道一時間半かかりましたから眠い毎日、授業中机に突っ伏して寝ていると先生に肩をよく叩かれたものです。元々体力がなかったので仕方なかったと思っています。なにしろ、徒競走は小学校の時からドリ、野球をやると9番ライトでしたし、泳げないので立高の伝統行事である遠泳もパス。体育祭もさぼりました。暇な時間は演劇部の部室でぐだぐだする毎日でした。

運動が駄目なら学業は優秀かということこちらも問題ありでした。入学した最初の学期の成績はクラス最下位でした。父母参観に出席した母から恥かいたわよと言われたので良く覚えています。立高三年間の通信簿に5は一教科もありませんでした。当然現役で大学に入ることは出来ず、当時の名門予備校である駿台に進み、大学三校を受けて唯一合格した早稲田大学理工学部電気通信学科に入学しました。

なぜこの学科を選んだかと言うと、子供の時からつるかめ算などの算数が得意だったからです。**算数好き→数学得意→理系→これからはエレクトロニクス**という発想です。私の考えではなく親父のアドバイスでした。今の私だったら数学が必須の経済学部を選んだかもしれません。しかし、当時の私に異論はなく、その後、ITを生業とする電電公社に入りました。自分が確立できておらず、恋愛を含め全てにわたって優柔不断で、人生の停滞期でした。

このような流される人生はその後も続き、やっと**転機が訪れたのは35才**になった時でした。会社が電電公社からNTTに民営化し、熊本に赴任していました。そこで橋本さんというビジネスの天才であり、兄のような、親しい友人に出会って私の人生はエキサイティングなものに変わりました。話が長くなるのでこの辺の経緯に興味のある方は先般図書室に寄贈させて頂いた拙著「**iモードの猛獣使い**」をお読み下さい。

その後東京に戻り、NTTドコモ設立と同時に転籍し、iモードを開発しました。それまでパソコンが唯一の入出力装置であったインターネットの世界に携帯電話を持ち込み、**世界で初めてモバイル・インターネット・サービスが商売になることを証明**してみせたのがiモードです。事実、ドコモには**20兆円を超える収益**をもたらしました。

このように、**人生は停滞する時期もあり、弾ける時もあります**。私のようにその時期が遅いタイプもあれば、若くして高校や大学で花開く人もいます。その時期や内容は人それぞれ、十人十色です。今調子の良い方はそれをドンドン伸ばし、今一歩、二歩の方は焦らず地道に進んで行って下さい。**きっと将来あなたをワクワクさせるエキサイティングな時がやってきます**。

友人を一人でも二人でも作り、ケータイ文化を創った張本人の一人としては言いにくいのですが、スマホばかり触らず、**本を色々読み、空想し、妄想し、友人と議論**することをお勧めします。皆さんは、私のような還暦二周目に入った人間と違い、登り坂にいます。未来は開けています。高校生活を大いに悩み、もがき、楽しんで下さい。



「iモードの猛獣使い」
表紙の写真は松永真理、夏野剛両氏と著者